

令和二年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る署名式の実施

11月20日、令和二年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の2つの案件の署名式が大使公邸にて開催されました。

署名が行われた2つの案件の実施内容と各代表のあいさつは以下の通りです。

1. 「エプワース市オーバースピル市場における“女性の安全”のためのファミリーサポートセンター建設計画」

このプロジェクトは、NGO「カツウェ・シスターフッド」に対して約1千万円の資金を供与し、首都ハラレからおよそ20km東に位置するエプワース市オーバースピル市場において、UN Womenとエプワース市が共同で進める”Safe City Project”計画のフェーズ2として、法律相談室、健康相談室、カウンセリング室、交番、ユースセンター、職業支援センターを併設するファミリーサポートセンターを建設し、女性が安心して利用できる市場を構築し、女性と少女に対する暴力の根絶に寄与することを目的とするものです。

ジュモ代表は、プロジェクトの実施によって、貧困により売春を余儀なくされている少女や、ジェンダーに基づく暴力（GBV）に苦しむ女性たちが、必要な支援にアクセスできるようになり、保護や経済的自立のためのサービスを楽しむことができるようになる」と述べました。

2. 「ブラワヨ市ムピロ中央病院におけるジェンダーに基づく暴力被害者のためのクリニック建設計画」

このプロジェクトは、NGO「ファミリー・サポート・トラスト」に対して約1千万円の資金を供与し、ブラワヨ市にあるムピロ中央病院において、GBV被害者のためのクリニックを新たに建設し、患者が必要な治療及びサービス（カウンセリング、検査、治療、法的措置等）を一か所で受けられるようになり、被害女性のプライバシーを保護し、二次被害から守り、必要とされる医療環境の改善を図ることを目的とするものです。

ムチングリ代表は、新たなクリニックが建設されることで、心と体に傷を負った少女・女性が、奇異の目に晒されることなく安心して治療に臨むことができる環境を整備することができる」とともに、より包括的な治療を行うことが可能となると述べました。

同式典に出席した笠原臨時代理大使は、この2つのプロジェクトが完成した際には、GBV被害者が必要な治療やカウンセリング等のサービスを楽しむことができるようになる」とともに、GBVの防止及びGBVが容認されない社会となるよう、大きな影響力を発揮できるようになることを期待すると述べました。

カツウェ・シスターフッド



ファミリー・サポート・トラスト



全体写真

